



# 小学校5～6年生から 楽しめる読み物

……物語を味わう……

＝おすすめの30冊＝



## あしながおじさん

ジーン・ウェブスター 作 谷口由美子 訳 岩波書店

ジュディは17歳。孤児院育ちの想像力が豊かな女の子です。ジュディの作文が気に入った評議員は、将来作家になることを条件に大学進学を援助します。また、文章をみがくため、手紙を書くように言いました。ジュディは、さっそく手紙を書きます。あて名は親しみをこめて「あしながおじさん」。ジュディの手紙はユーモアにあふれ、あしながおじさんも満足してくれるはずなのですが……。

ウエフスタ

## ヴァン・ゴッホ・カフェ

シンシア・ライラント 作 中村妙子 訳  
ささめやゆき 絵 偕成社

カンザス州フラワーズの町にあるヴァン・ゴッホ・カフェ。このカフェは、むかし劇場だった建物のかたすみにあります。そしてこのカフェには、魔法がしみ込んでいます。だからみんなが「一度あのカフェにいったら忘れられないだろう。」って。「できればずっとそこにいたいと思うようになるだろう。」って。やさしいふんい気がただよう、魔法がつまった作品です。

ライラント



## エルシー・ピドック、 ゆめでなわとびをする

ウオク

エリナー・ファージョン 作 シャーロット・ヴォーク 絵 石井桃子 訳 岩波書店

ケーバーン山のふもと、グラインド村の女の子たちの楽しみは、なわとびをすること。エルシー・ピドックは、生まれながらのなわとび上手。村じゅうの人が知っています。エルシーが7さいになったころ、そのうわさは妖精たちのなわとび師匠、アンディ・スパンディの耳にもとどきました。アンディ・スパンディは、エルシーのなわとびを見て言いました。「ひと月に一度、三日月の晩、ケーバーン山にいくのがよい。わしが、一年のあいだ、お前を教えよう。」



## 大きな森の小さな家

【インガルス一家の物語 1】

ローラ・インガルス・ワイルダー 作 恩地三保子 訳  
ガス・ウィリアムズ 画 福音館書店

あかりと言えば、ランプやだんろといった火にたよっていた開拓時代。北アメリカにある大きな森の、丸太でできた小さな家のお話です。ローラの一家の住む家のまわりは何マイルも木立が続き、野生動物のほかにはだれもいません。ローラはこの土地で、自然の厳しさや美しさを体験します。今のように便利ではない生活です。だからこそ生きる楽しさや、家族の愛情の温かさを味わうことができるのです。ローラの成長を中心に、一家の物語がつつられています。

ワイルダ

## おじいちゃんの口笛

くちぶえ

ウルフ・スタルク 作 アンナ・ヘグルンド 絵  
菱木晃子 訳 ほるぷ出版

ある日、ウルフがおじいちゃんの話をしました。それを聞いたベツラは「どうして、おれにはおじいちゃんがないんだろう?」と首をかしげます。ウルフにすすめられてふたりは老人ホームへ行き、ニルスさんというおじいちゃんを見つけました。たこをいっしょに作ったり、口笛のふきかたを教えてくれたり、ニルスさんは、ほんとうの孫のようにふたりと遊んでくれました。

スタルク



## 霧のむこうのふしぎな町

柏葉幸子 作 杉田比呂美 絵 講談社

6年生の夏休み、リナはおとうさんの知りあいがいるという「霧の谷」へ、一人で旅に出ました。森の前でまよっていると、とつぜん風がふき、リナのかさが飛ばされます。かさを追いかけて森をぬけると、赤やクリーム色の家々と石だたみの町が現れました。まるで外国にでもきたみたいですね。ここは霧の谷の「めちゃくちゃ通り」。ちょっと変わった人たちが住んでいます。リナと一緒にのぞいてみましょう。

カンワハ